

令和5年度 福岡市

# 中小企業における 脱炭素経営サポート事業

## 取組事例集



|        |   |
|--------|---|
| 本事業の概要 | 2 |
|--------|---|

|                 |   |
|-----------------|---|
| サプライチェーン排出量の考え方 | 3 |
|-----------------|---|

## 取組事例

|                |   |
|----------------|---|
| ◆ 排出量計測＋削減計画策定 | 5 |
|----------------|---|

1. 株式会社福住（不動産業）
2. 福岡倉庫株式会社（物流業）
3. 株式会社ドミックスコーポレーション（製版・製本業）
4. GG.SUPPLY株式会社（製造販売業）

|         |    |
|---------|----|
| ◆ 排出量計測 | 13 |
|---------|----|

1. 株式会社ケーメック（製造業）
2. 株式会社正信（製造業）
3. 株式会社システム・ジェイディー（製造業）
4. Sunday Morning Factory株式会社（製造・小売業）
5. 匿名希望（製造・販売業）
6. 創循グループ（製造・販売業）
7. エコワークス株式会社（建設業）
8. 平和電興株式会社（建設業）
9. 株式会社中村タイル商会（建設業）
10. 株式会社梅村組（建築・土木等建設工事の請負）
11. 九州自動車硝子株式会社（自動車修理業）
12. 株式会社FCCテクノ（情報サービス産業）
13. 株式会社J STRUCT（サービス業）
14. いろいろ株式会社（サービス業）
15. 株式会社T-SYNERGY（飲食業）

# 本事業の概要

## 背景

### 気候変動

#### 2017年7月 九州北部豪雨

福岡県・大分県の同じ場所に猛烈な大雨が降り続け、42名が犠牲となった。

#### 2018年6～8月 記録的な猛暑

東・西日本は記録的な高温となり、熱中症による救急搬送人員の累計は95,137人に達した。



### 産業・経済活動への影響

**豪雨・台風**  
製造業：工場等の操業停止  
商業：スーパー・百貨店などの臨時休業



### 気温上昇

建設業：熱中症の増加、作業効率の低下  
エネルギー業：気温上昇に伴うエネルギー需要の変化

農林水産業、水資源、自然生態系など広範囲に及ぶ「気候変動リスク」

### 政府・金融市場からの要請

・ 気候変動適応を求める法規制等    ・ 投資家からの要求    ・ 環境配慮に敏感な世代の消費者



## 中小企業が取り組む意義

### メリット

規制強化  
政府や金融機関からのさらなる規制強化が行われた場合でも、迅速な対応ができる



### リスク

対応に時間がかかり、ライバル企業に先を越されてしまう

### 取引機会

サプライチェーンから選ばれる企業になる



サプライチェーンから外されてしまう可能性がある

### 資金調達

ESG投資の対象となり資金を集めやすくなることに加え、補助金・融資制度の選択肢が広がる



投資や補助金活用の機会を失ってしまう

### 人材獲得

社員の共感や信頼を獲得できる  
有能な人材を集めることができる



環境問題等への意識が高い人材の採用が難しくなる

## 事業スキームと実施内容



事業委託

AAKEL × 福岡銀行

脱炭素経営サポート



コンソーシアム

中小企業事業者

STEP  
01

セミナー開催

実施時期、講演内容、集客実績等を簡単に

STEP  
02

伴走支援

見える化、計画策定の実績。支援社数・期間など

STEP  
03

事例化

本事例集は、伴走支援の内容について他の中小企業への横展開を促すもの

# サプライチェーン排出量の考え方

## Scope1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出

Scope1は、事業者が燃料を使用したり、製造工程の化学反応で発生させたりしたその企業自身が「直接排出」している温室効果ガス（GHG）排出量



$$\text{GHG排出量} = \text{燃料の量（または金額）} \times \text{排出係数（排出原単位）}$$

### Scope1は2種類に大別

#### 1. 燃料を燃やすときに出るGHG



車両やボイラー、炉などを利用している企業で、ガソリンや軽油、液化石油ガス（LPG）等

#### 2. 製造過程の化学反応によって出るGHG



鉄やセメントの製造等、化学製品を作る企業  
化学反応の過程で排出されるガスや、溶接等の作業から出るガス等漏れが多いので注意

## Scope2 供給されたエネルギーの使用にともなう間接的な排出

Scope2は、自社が所有する設備や中心となっている事業活動でのエネルギー使用にともなう「間接的なCO2排出」を指す。  
例えば、工場・事務所での電力エネルギーの使用や、熱や冷却、蒸気など外部から供給を受けるエネルギーがScope2に該当する。



$$\text{Scope2} = \text{電気使用量（kWh）} \times \text{排出係数}$$

### Scope2に該当するエネルギーの種類

#### 電気



ほぼすべての事業所で用いられる。主として、機械の運転や照明、電気自動車の充電、冷暖房設備の稼働に使用

#### 蒸気



産業工程において価値のあるエネルギー源。機械の運転や加工媒体として直接的に使用

#### 温熱



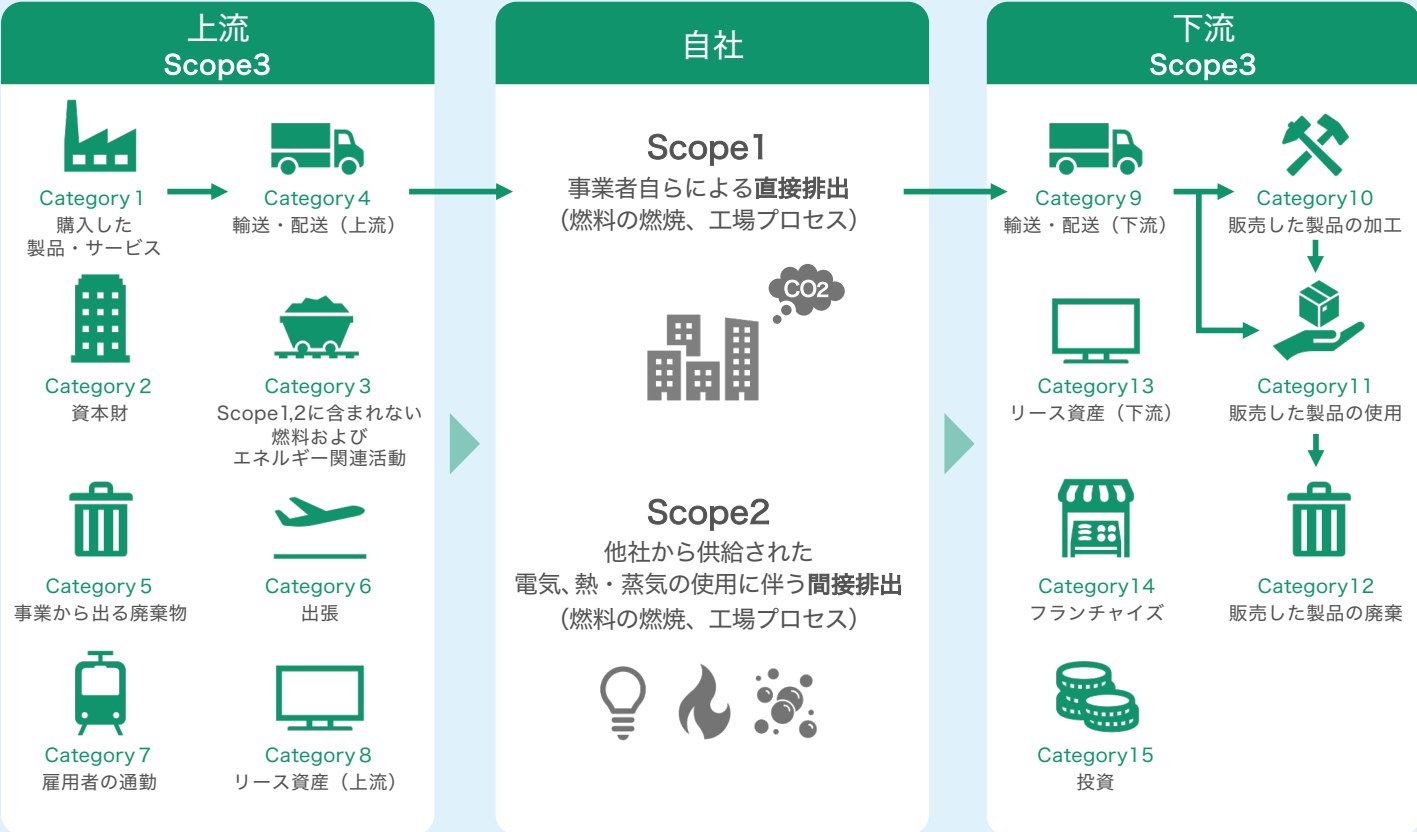
多くの工場において建物の内部環境をコントロールし水を温めるために必要。電気や太陽光などを通じて生産される

#### 冷熱



温熱と同様に、建物の内部環境をコントロールするために必要。常温より温度の低い熱エネルギーを冷熱と呼ぶ

Scope3 Scope1、Scope2以外の事業者の活動に関連する他社のGHG排出量



出所：環境省 サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン

カテゴリ内での特定

| Scope3カテゴリ     | 該当する活動                   | 収集すべきデータ               | ソース                  |
|----------------|--------------------------|------------------------|----------------------|
| 1 購入した製品・サービス  | 原材料などの採掘、加工など            | 原材料調達量、加工方法            | 販売管理システム             |
| 2 資本財          | 工場などの資本財の製造や資材の採掘、加工など   | 資本財投資額                 | 経理システム               |
| 3 燃料およびエネルギー活動 | 購入燃料・電力の採掘、精製など          | 燃料、電力の使用               | 生産管理システム             |
| 4 輸送・配送（上流）    | 購入物品の物流<br>委託物流          | 購入物品の物流量<br>委託物流量      | 販売管理システム<br>物流管理システム |
| 5 事業から出る廃棄物    | 自社拠点から発生する廃棄物の処理         | 自社拠点から発生した廃棄物料         | 生産管理システム             |
| 6 出張           | 出張に伴う移動                  | 出張旅費金額                 | 経理システム               |
| 7 雇用者の通勤       | 通勤に伴う移動                  | 通勤費支給額                 | 経理システム               |
| 8 リース資産（上流）    | リース使用している倉庫の運送時          | リース資産の稼働時のエネルギー使用量     | リース会社                |
| 9 輸送・配送（下流）    | 出荷後、所有権移転後の物流            | 出荷後、所有権移転後の物流量         | 販売管理システム             |
| 10 販売した製品の加工   | 販売された中間製品（部品、素材）の出荷先での加工 | 中間製品の出荷先での加工時のエネルギー使用量 | 経理システム               |
| 11 販売した製品の使用   | 販売された製品の使用               | 製品の使用時のエネルギー使用量        | SFAシステム              |
| 12 販売した製品の廃棄   | 販売された製品の廃棄               | 製品の廃棄方法                | 手作業                  |
| 13 リース資産（下流）   | リース貸ししている資産の客先運用         | リース資産の客先での稼働時のエネルギー使用量 | リース会社                |
| 14 フランチャイズ     | フランチャイズ店舗の稼働             | フランチャイズ店舗でのエネルギー使用量    | SFAシステム              |
| 15 投資          | 投資先の稼働                   | 投資額と出資比率               | 経理システム               |
| その他（任意）        | 従業員や消費者の日常生活に関する排出等      |                        |                      |

# 株式会社福住



業種：不動産業 従業員数：79名

本社所在地 福岡市中央区天神

事業内容 総合不動産業  
不動産売買仲介、賃貸仲介・管理、コインパーキング事業、  
リノベーション事業 他



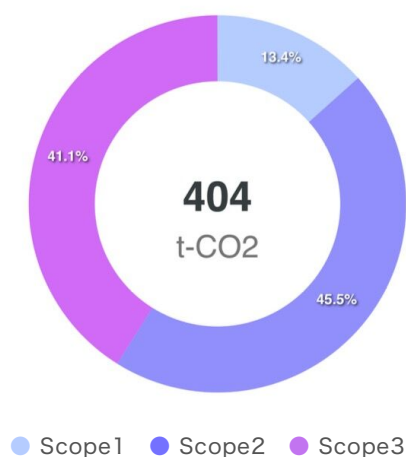
## 取り組みのきっかけ

中小企業がカーボンニュートラル実現に向けての第1歩として、現状のGHG排出量等の把握、並びに実際にどのような取り組みができるかを分析するため挑戦しました。

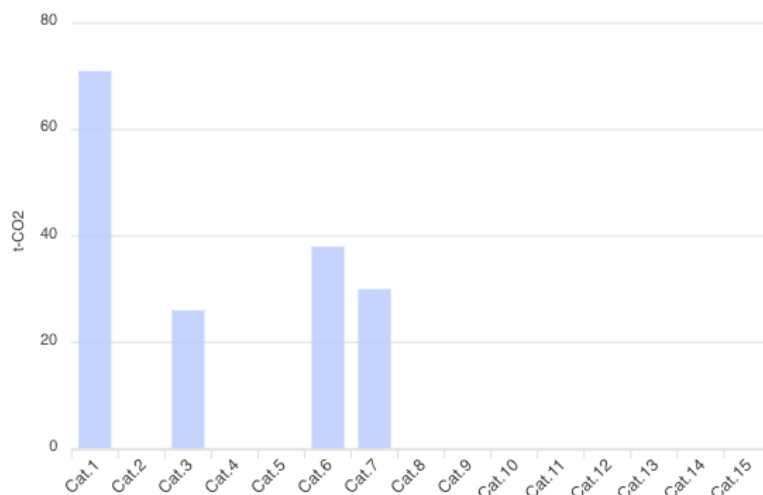
## GHG排出量計測

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 対象 | 本社                         |
| 範囲 | Scope1～3 (Category1,3,6,7) |
| 期間 | 2022年4月～2023年3月            |

### 計測結果



### カテゴリー別CO2排出量



## 計測のポイント・今後の課題

### 1. 計測のポイント

- ・ オフィスとコインパーキングの電気の30分値を取得し、時間帯ごとの電気使用量を確認しました。どこに多くの電気が使われているのか細かく分析を行いました。

### 2. 今後の課題

- ・ オフィスにはサーバールームがあり、サーバールームでは常に冷房が18度設定で稼働しています。クラウド化するための時期や導入方法を検討します。
- ・ コインパーキングでは、自動販売機からの排出が多いことがわかりました。自動販売機からの排出を減らすために、省エネの自動販売機を導入するか、再エネ100%の電気を使用するか検討します。

## GHG排出量削減計画

### 1. 計測結果において着目したポイント

Scope1,2の削減は自社で取り組める内容のため、優先的に減らしていくと良いと着目しました。

### 2. 削減の方針と具体策

#### 2030年までの目標

1. 既存のガソリン車の車種と走行距離を調査し、費用対効果を策定しました。走行距離の長い費用対効果の出る社用車から順次EVに変更予定です。
2. オフィスの空調機にパスワードを設定し、パスワードを知ってる人しか温度変更できないよう設定する予定です。
3. コインパーキングの電力契約を再エネプランに変更する予定です。

#### 2040年までの目標

1. コインパーキングにEV充電器を導入し、一般の方でも充電できる設備を導入する予定です。
2. コインパーキングに設置している自動販売機を省エネのものに変更する予定です。
3. 高圧契約のオフィスの電力契約を再エネプランに変更する予定です。

### 3. 削減計画

2030年までにすぐ取り組める、コインパーキングの電力契約プラン変更、空調の再エネ、コインパーキングのフラップレス化、低圧契約の再エネ化、社用車にEV導入、サーバーレスに取り組みます。

2040年までに高圧プランの再エネ化、充電パーキングの導入、ソーラーカーポートの導入に取り組みカーボンニュートラルを目指します。

| 分類   | 施策         | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 2036 | 2037 | 2038 | 2039 | 2040 |
|------|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 電化   | 電気料金プラン変更  | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | 空調省エネ      | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | 駐車場フラップレス化 | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 再エネ化 | 低圧契約の再エネ化  | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 電化   | EV導入（社用車）  |      | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | サーバーレス     |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |
| 再エネ化 | 高圧契約の再エネ化  |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |
| 電化   | 充電パーキング    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    |      |      |      |
| 再エネ化 | ソーラーカーポート  |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    |

## ご担当者様コメント

伴走支援を受け、脱炭素の取り組みはすぐに取り組むことができることもあれば、EV車導入時の充電ポート設置など、課題を解決して取り組みしなければならないことが多々あることに改めて気づくことができた。カーボンニュートラルを実現するためには、この課題を早期に解決することと、現在立てた計画に効果があるか継続して検証することが必要であると理解を深めることができた。

## 専門家からのコメント

カーボンニュートラルに向けた新しい取り組みを前向きに行われています。そして、ただ取り組むだけでなく、事業活性化に絡めて取り組んでいるところが印象的でした。コインパーキングのカーボンニュートラル化の事例は少ないので、福住様の取り組みから全国に広まることを期待しています。



# 福岡倉庫株式会社

業種：物流 従業員数：265名

本社所在地 福岡市東区多の津

事業内容 倉庫業、通関業、港湾運送事業、貨物自動車運送事業、  
国内外引越梱包業



福岡倉庫株式会社  
FUKUOKASOKO Co., Ltd.



## 取り組みのきっかけ

ISO14000を2006年に取得し、再認証も降りて2027年まで継続されます。GHG排出量のデータ取得や管理は浸透してきて安定してきましたが、データの内容がマンネリしているため、外部の方からアドバイスをいただきたいと思います。取り組みもうと思いました。

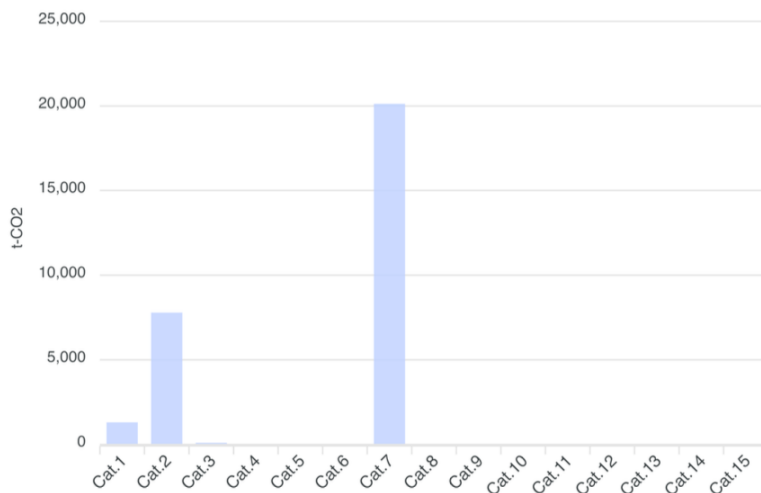
## GHG排出量計測

|    |                        |
|----|------------------------|
| 対象 | 本社・倉庫部の拠点・営業所          |
| 範囲 | Scope1～3 (Category1～7) |
| 期間 | 2022年9月～2023年3月        |

### 計測結果



### カテゴリー別CO2排出量



## 計測のポイント・今後の課題

### 1. 計測のポイント

- 倉庫部の拠点が複数あるため、拠点毎に排出量の計測を行い、導入している設備による排出量の違いを計測しました。

### 2. 今後の課題

- Scope3からの排出がほとんどですが、Scope3を削減するのは難しいため、まずはScope1,2の削減を目指します。
- 太陽光発電を取り入れている営業所では、昼の時間の発電量が多く電気が余っているため、余っている分の電気をどう使用していくかが課題です。

## GHG排出量削減計画

### 1. 計測結果において着目したポイント

玄望園営業所は既に太陽光発電を導入しており、再エネ化に取り組んでいるため、玄望園営業所をモデルに他営業所にも再エネを拡大していくと良いと思いました。



### 2. 削減の方針と具体策

#### 2030年までの目標

1. 既存のガソリン車の車種と走行距離を調査し、費用対効果を策定しました。走行距離の長い費用対効果の出る社用車から順次EVに変更予定です。
2. 冷蔵設備と空調設備を更新予定です。

#### 2040年までの目標

1. 空調の切り替えタイミングは10年と言われているので、少し前に変更した営業所の空調も2030年あたりに最新のものに更新予定です。
2. 各営業所を省エネにしてコストを減らした分で、再エネプランに変更予定です。
3. 新倉庫への太陽光発電設備を導入予定です。（玄望園営業所は導入済）

### 3. 削減計画

2030年までにすぐ取り組める、事務所の再エネ、冷蔵設備の更新、空調の更新に取り組めます。

2040年までに事務所の遮熱、社用車のEV化、太陽光発電の導入に取り組むカーボンニュートラルを目指します。

| 分類   | 施策      | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 2036 | 2037 | 2038 | 2039 | 2040 |
|------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 再エネ化 | 事務所の再エネ | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | 冷蔵設備の更新 |      |      |      | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | 空調の更新   |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | 事務所の遮熱  |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |
| 電化   | 社用車のEV化 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |
| 再エネ化 | 太陽発電の導入 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    |

## ご担当者様コメント

長年環境についてのマネジメントシステム（ISO14001）を運用してきましたが、環境関連データ収集に終始しているくらいが有った。今回、外部からのアイデア・知識を聞いたことで違った側面から環境について考えることが出来た。今後の当社の環境活動について参考にしたい。

## 専門家からのコメント

玄望園営業所のをモデルとして、屋根上への太陽光発電の導入等、非常にカーボンニュートラルに向けて先進的な取り組みを進められておられます。このような取り組みはご継続いただき、他倉庫に展開するとともに、将来的にはScope3カテゴリ7のターゲットにし、従業員の方々を巻き込んだ排出量削減に取り組んでいただければと思います。

# 株式会社ドミックスコーポレーション



業種：製版・製本・印刷業・Web 従業員数：35名

本社所在地 福岡市博多区博多駅南

事業内容 企画・デザイン・製版・印刷・製本・加工まで行う総合印刷業、HP制作・WEB開発



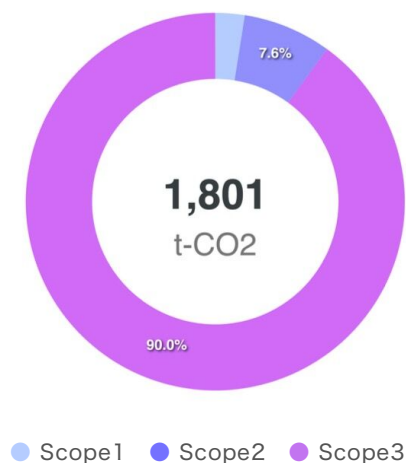
## 取り組みのきっかけ

当社は印刷業界における環境問題への取り組みを早期から始め、2002年にISO14001、2003年にはFSC®認証を取得、2004年からは印刷時に水を使わない革新的な「水無し印刷」に取り組み、2012年からはカーボンオフセットにも力を注いでいます。この取り組みが高評価を得て大手のお客様からサプライヤーとして取り組みを求められることが増えたため、見える化に取り組みを決めました。

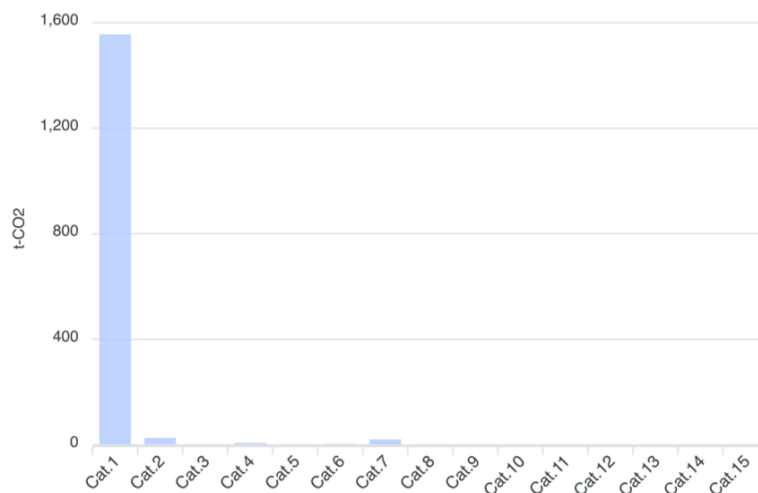
## GHG排出量計測

|    |                         |
|----|-------------------------|
| 対象 | 本社（第2工場を含む）             |
| 範囲 | Scope1～3（Category1,2,4） |
| 期間 | 2022年2月～2023年11月        |

### 計測結果



### カテゴリー別CO2排出量



## 計測のポイント・今後の課題

### 1. 計測のポイント

- ・ カテゴリー4の輸送による排出の算定は輸送する紙の重さと距離を算出し計算しました。

### 2. 今後の課題

- ・ 社員の自家用車を社用車として使用しているところもあるため、今後自家用車を使用せず、社用車としてEVを導入するかの検討が課題です。

## GHG排出量削減計画

### 1. 計測結果において着目したポイント

- ・ 自社からの排出であり、排出量の多いScope1,2を削減する必要があります。

### 2. 削減の方針と具体策

#### 2030年までの目標

1. 既存のガソリン車の車種と走行距離を調査し、費用対効果を策定。  
走行距離の長い費用対効果の出る社用車から順次EVに変更する予定です。
2. 事務所の遮熱、空調の更新を行う予定です。
3. 照明を蛍光灯からLEDに置き換えを行う予定です。
4. 一部の電力契約を再エネプランのものに変更する予定です。

#### 2040年までの目標

1. 社員所有の車のガソリン使用量を減らすために、社内制度設備を見直す予定です。
2. 電力契約を再エネプランのものに全量変更する予定です。

### 3. 削減計画

2030年までにすぐ取り組める、運用改善による効率化、機器更新による効率化、再エネメニューへの一部切り替えを取り組みます。

2040年までに社員所有の車からの排出を削減に向けた社内制度設備、EVの導入、再エネメニューへの全量切替に取り組みカーボンニュートラルを目指します。



| 分類   | 施策                       | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 2036 | 2037 | 2038 | 2039 | 2040 |
|------|--------------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 効率化  | 運用改善                     | ■    | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 効率化  | 機器更新                     |      |      |      |      | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 再エネ化 | 再エネメニューへの一部切替            |      |      |      |      |      | ■    | ■    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 電化   | 社員所有車利用からの排出削減に向けた社内制度整備 |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    | ■    | ■    |      |      |
| 電化   | EV導入                     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    | ■    |      |
| 再エネ化 | 再エネメニューへの全量切替            |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      | ■    |

### ご担当者様コメント

見える化に取り組んだことで、当社の生産活動が地球環境に与える影響の具体的なイメージが持てるようになり、私たちの行動の一つ一つがどれほどの影響を及ぼしているのかを再認識しました。今後も私たちの環境負荷を正確に把握し、福岡市の2040年のカーボンニュートラルを目指す取り組みに積極的に貢献していければと思います。

### 専門家からのコメント

元々ISO14001やFSC®認証を取得されていたり、水無し印刷という排水設備の削減に貢献する印刷方式に取り組んでおり、カーボンニュートラルに向けた前向きな取り組みが素晴らしいと思いました。老舗企業様のいいところは残しつつ、これからもGHGの削減に取り組もうとする姿勢が印象的です。

# GG.SUPPLY株式会社



業種：製造販売 従業員数：2名

本社所在地 福岡市中央区舞鶴

事業内容 店舗事業、水耕栽培による野菜生産・販売、  
植物工場の運営管理・フランチャイズ展開



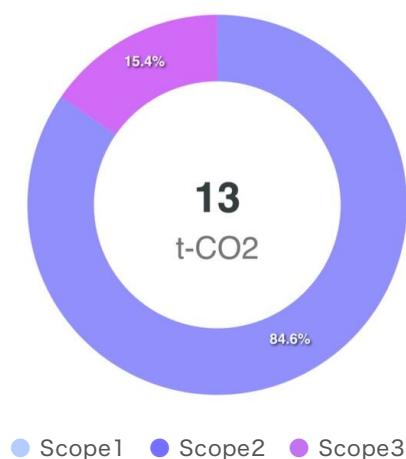
## 取り組みのきっかけ

日々削減に取り組みながら活動しているが、従来の野菜物流における排出量とどのくらい排出量差があるのか比較を行ってみたいと思ったからです。

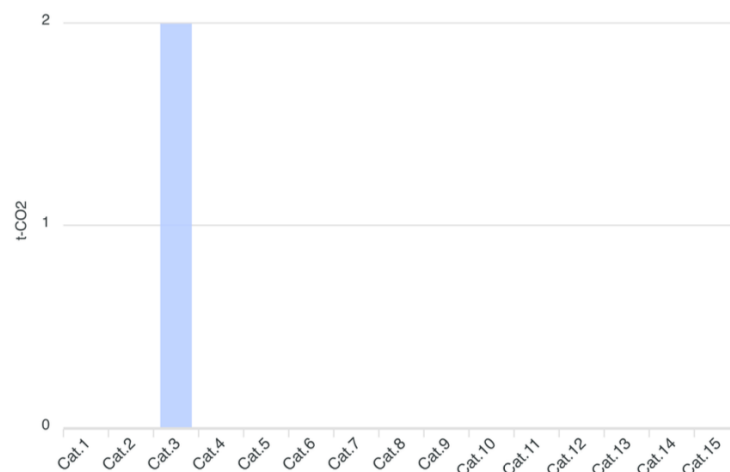
## GHG排出量計測

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 対象 | 舞鶴店                        |
| 範囲 | Scope1～3 (Category1,3,6,7) |
| 期間 | 2022年10月～2023年9月           |

### 計測結果



### カテゴリー別CO2排出量



## 計測のポイント・今後の課題

### 1. 計測のポイント

- 事業内容自体がGHG削減に取り組んでいる状況だが、電気を使用した栽培になるため、電気の使い方  
の分析を行い計測しました。

### 2. 今後の課題

- 金額ベースで概算で出している部分を、取引数量に応じた排出係数の把握、サプライチェーンを含めた削減を行います。
- 再エネをどう取り入れるかの検討をします。

## GHG排出量削減計画

### 1. 計測結果において着目したポイント

- Scope2を削減する必要があります。（Scope1なし）
- Scope2は店舗での電力使用による排出です。

### 2. 削減の方針と具体策

- 店舗で使用する電力に再エネを導入する予定です。
- 導入方法としては以下の方法を考えました。
  1. 太陽光発電設備を設置し、店舗に引き込み自家消費
  2. オンサイト・オフサイトPPA
  3. 再エネプランへの切り替え
  4. 証書の購入
- 上記の1,2は立地の制約から現実的ではなく、3,4で検討を進めました。



### 3. 削減計画

再エネ100%プランを提供する電力事業者との契約を以下の方法で進めました。

1. 店舗の電気の使い方（使用時間帯、負荷率）を分析
2. 各電力プランでの年間電力料金の試算
3. 自社に最適な再エネ100%の電力プランと契約

| 分類   | 施策                | 2023年12月 | 2024年1月 | 2024年2月 | 2024年3月 | 2024年4月 |
|------|-------------------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 再エネ化 | 自家消費・PPA・非化石証書の検討 |          |         |         |         |         |
| 電化   | 電力使用傾向の把握         |          |         |         |         |         |
| 電化   | 年間使用量の確認          |          |         |         |         |         |
| 電化   | 電力料金の試算           |          |         |         |         |         |
| 電化   | 再エネプランに契約         |          |         |         |         |         |

## ご担当者様コメント

栽培から輸送における、従来の農業とのCO2の排出量を比較し算出することが想像以上に簡単にできました。GHG排出算定を今後も定期的の実施し、削減計画をブラッシュアップしていきたいです。

## 専門家からのコメント

企業内容自体がカーボンニュートラルを目指している企業内容のため、排出量が非常に少ない結果となりました。美味しくて新鮮なうえに、GHG排出量が少ないというのは良いことばかりですね。事業が全国に広がり日本全体の排出量削減に貢献できると良いなと思っています。

## 株式会社ケーメック

業種：製造業 従業員数：140名

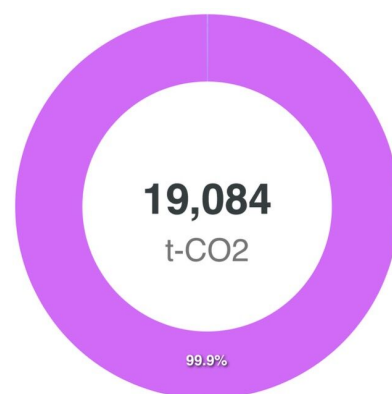
|    |                            |
|----|----------------------------|
| 対象 | 本社兼倉庫                      |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1,3~7) |

## ご担当者様コメント

SDGsの達成に向け、商工中金様の支援を得ており、取り組みの過程で「GHG排出量の可視化」が課題でした。利用開始当初は、スタッフ含め可視化の必要性が定着せず、苦労はありましたが、企業の社会的責任という目的を社内に浸透させることができました。

## 専門家からのコメント

最も多く排出していたカテゴリ4の輸送する重さ（トン）と輸送距離（キロ）で計算するトンキロ法使い、しっかりとシナリオ設定し、算定に取り組んでいただきました。



2023年度四半期実績

## 株式会社正信

業種：製造業 従業員数：33名

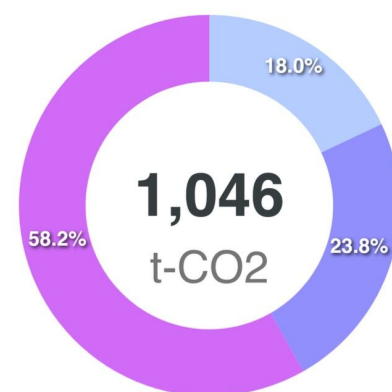
|    |                              |
|----|------------------------------|
| 対象 | 本社                           |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1,2,3~7) |

## ご担当者様コメント

ツールを使うことで、排出量が簡単に算出でき非常に便利でした。

## 専門家からのコメント

月別売上とCO2排出量に比例関係があることがわかるなど、経営と結びつけた分析ができました。



2022年度四半期実績

## 株式会社システム・ジェイディー

業種：製造業 従業員数：3名

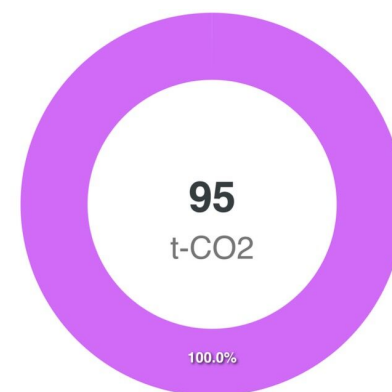
|    |                            |
|----|----------------------------|
| 対象 | 本社                         |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1,3~7) |

## ご担当者様コメント

GHG排出量算定のプロセスを具体的に体得することができ、地球温暖化対策に向けた社内体制を構築することができました。

## 専門家からのコメント

今後海外展開もされていく中で、自社の脱炭素化は必須となってくるといってお取り組みいただきました。排出量算定を基礎としてLCA等にも広げていかれること期待しております。



2023年度四半期実績

## Sunday Morning Factory株式会社

業種：製造・小売業 従業員数：18名

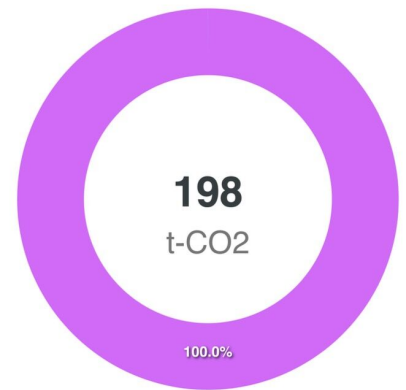
|    |          |
|----|----------|
| 対象 | 本社       |
| 範囲 | Scope1,2 |

### ご担当者様コメント

想像よりも簡単にCO2の排出量を算出することができてびっくりしました。どれだけCO2を排出しているのか把握できたことで、どう減らしていけば良いのか対策をたてることができました。

### 専門家からのコメント

オーガニックコットンを使用されていたり、再エネの電力を使用されていたため、排出量の少ない結果となりました。これからも少ない排出量が維持できると嬉しいですね。



2023年度実績

## 匿名希望

業種：製造・販売業 従業員数：35名

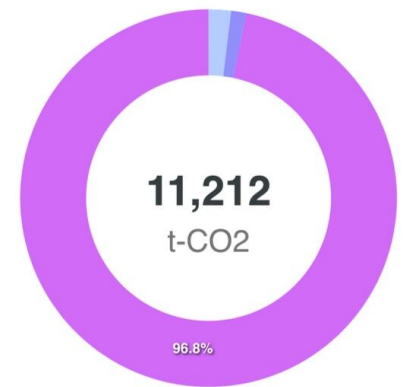
|    |                          |
|----|--------------------------|
| 対象 | 本社・工場                    |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1~7) |

### ご担当者様コメント

今回、CO2排出量が見える化できたことで、今後の課題が見えてきました。eCarbonは、対象品が細かく分類されており、大変使い易いと思います。

### 専門家からのコメント

経営陣と実務者で算定に取り組んでいただき、非常にスムーズに進めることができました。今後削減計画を立てる際にも同じような体制で取り組むとうまくいくのではないかと思います。



2022年度実績

## 創循グループ

業種：製造・販売業 従業員数：グループ313名（2023年3月時点）

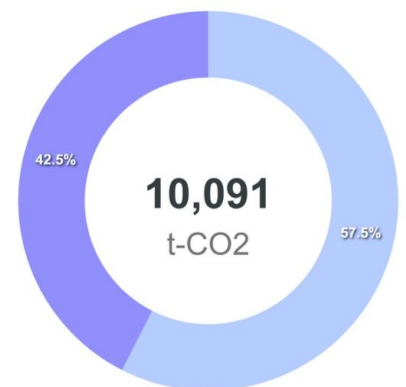
|    |                    |
|----|--------------------|
| 対象 | 創循HD、FYC、南国興産、南国運送 |
| 範囲 | Scope1,2           |

### ご担当者様コメント

GHG排出量の算出を実施したことで、自分たちの事業の強みを確認することができました。今後も定期的にGHG排出量の算定を行っていきたいと思います。

### 専門家からのコメント

養鶏業者から発生する鶏糞を燃料としてバイオマス発電をおこない、排出量削減につながる活動をされています。数値化されたことで明確になってこちらも嬉しく思っています。



2022年度実績

## エコワークス株式会社

業種：建設業 従業員数：88名

|    |                                |
|----|--------------------------------|
| 対象 | 本社・モデルハウス                      |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1~7,11,12) |

## ご担当者様コメント

弊社では、Scope1とScope2について2030年までに排出量ゼロを目指していますが、Scope3についても継続的な排出量把握を行い、サプライチェーンすべてを含めた脱炭素経営を目指してまいります。

## 専門家からのコメント

Scope3の算定に尽力いただき、精緻な数字に近付けることができました。自社のZEB化や再エネメニューの利用によりScope1,2の排出は非常に少ないです。



2021年度実績

## 平和電興株式会社

業種：建設業・電気設備工事業 従業員数：118名

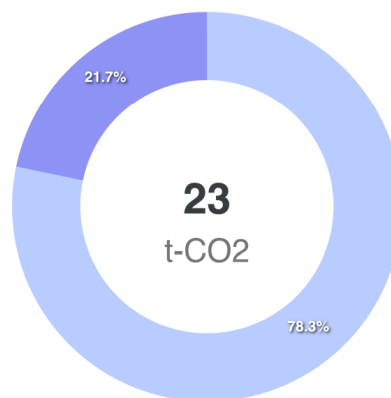
|    |           |
|----|-----------|
| 対象 | 本社・配電工事業部 |
| 範囲 | Scope1,2  |

## ご担当者様コメント

今回はガソリンと電気使用に伴うCO2の算出のみだったので入力自体は苦労なくできました。ガソリン使用量は社内の資料を集計するまでに時間がかかりました。

## 専門家からのコメント

データを集計しながら排出量算定を進めていただきました。Scope1,2の算定方法は体得していただいたので、ゆくゆくはScope3の算定にも挑戦してみてください。



2023年12月実績

## 株式会社中村タイル商会

業種：建設業 従業員数：13名

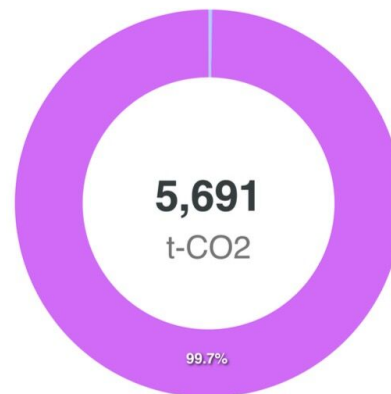
|    |                          |
|----|--------------------------|
| 対象 | 本社                       |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1~7) |

## ご担当者様コメント

専門家のサポートがあって自社でもCO2排出量を算定することができました。これを踏まえて自社活動の課題と対応を検討したいと思います。

## 専門家からのコメント

タイルを重量で分類いただくことで、カテゴリ1の排出量算定を実現できました。



2022年度実績

## 株式会社梅村組

業種：建築・土木等建設工事の請負 従業員数：83名

|    |               |
|----|---------------|
| 対象 | 本社、長崎支店、福岡営業所 |
| 範囲 | Scope1,2      |

### ご担当者様コメント

GHG排出算定の考え方や算定方法が理解できました。

### 専門家からのコメント

工事現場ごとのデータ収集にご尽力いただいた結果、より正確な排出量を算定できました。



2022年度実績

## 九州自動車硝子株式会社

業種：自動車修理業 従業員数：19名

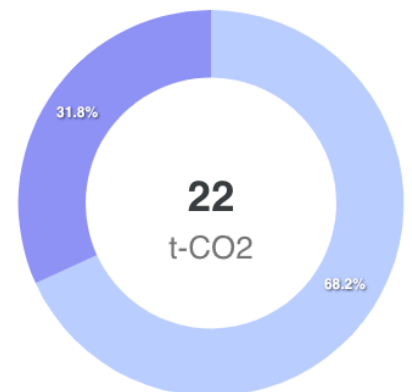
|    |          |
|----|----------|
| 対象 | 本社       |
| 範囲 | Scope1,2 |

### ご担当者様コメント

専門家との打ち合わせの中で、当社で行っている事業の中で自動車から出るCO2の排出量削減に間接的に関係しそうなので、そのような目線からも事業戦略を考え、削減に取り組みたいです。

### 専門家からのコメント

車の窓ガラスを遮熱や断熱のものに変えると、車内の空調温度を緩和でき、他の企業様のScope3のGHG排出量削減に取り組み、良いことだと感じました



2023年度実績

## 株式会社FCCテクノ

業種：情報サービス産業 従業員数：145名

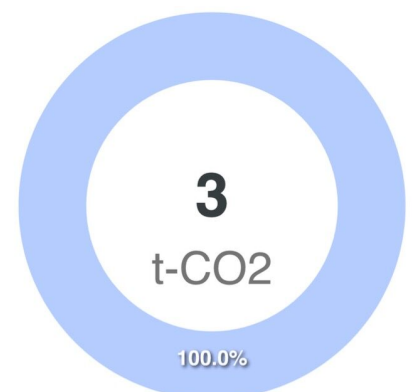
|    |          |
|----|----------|
| 対象 | 本社       |
| 範囲 | Scope1,2 |

### ご担当者様コメント

GHG排出量の算定をしてみて自社のどの活動から排出があるのかよく理解できました。今後の検討材料とさせていただきます。

### 専門家からのコメント

電力使用量はそれなりにあるものの、再エネメニューをすでに使用されており、排出量はかなり少ない結果となりました。再エネプランの利用は手軽で有効な排出量削減方法だと改めて感じました。



2022年度実績

## 株式会社J STRUCT

業種：サービス業 従業員数：4名

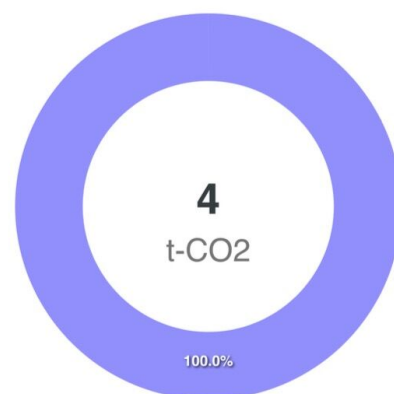
|    |          |
|----|----------|
| 対象 | 本社       |
| 範囲 | Scope1,2 |

## ご担当者様コメント

排出量の算定をしていただいたのは初めてなので、今後この数値を意識しながら事業を継続していくことが大事なのだと思います。

## 専門家からのコメント

排出は主にテニスコート用の電力使用とシャワーの温水の利用からでした。給湯の電化と電気の再エネプランへの切り替えで排出量ゼロにすることが可能です。



2023年度実績

## いろいろ株式会社

業種：サービス業 従業員数：3名

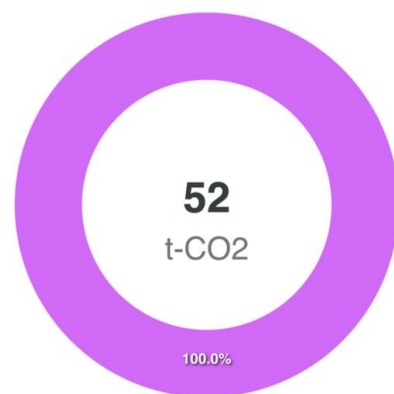
|    |                            |
|----|----------------------------|
| 対象 | 本社                         |
| 範囲 | Scope1,2,3 (Category1,6~8) |

## ご担当者様コメント

GHG排出量の算定と可視化を丁寧にサポートいただき、当社の活動と排出量の関係性の理解が進みました。今後は可視化いただいた情報を基に公共交通機関の利用促進、遠方のお客様へのweb会議化の促進などを進めていければと考えております。

## 専門家からのコメント

公共交通機関の利用、再エネ電力の利用によりScope1,2は0です。福岡市内にはIT企業も多いので横展開が期待されます。



2022年度実績

## 株式会社T-SYNERGY

業種：飲食業 従業員数：3名

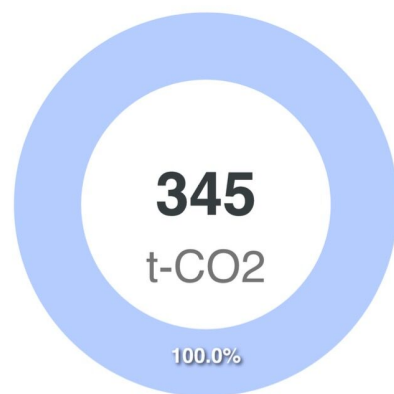
|    |          |
|----|----------|
| 対象 | 2店舗      |
| 範囲 | Scope1,2 |

## ご担当者様コメント

普段、ガスの排出量を全く気にせず事業(飲食店)をしておりましたが、改めて数値として見れてよかったです。今後は数値を意識しながら、事業を続けていけたらと思います。

## 専門家からのコメント

電気は既に再エネメニューを使用されているので、排出0という結果になりました。



2023年12月実績